

- ① 道路開通を祝してテープカットとくす玉割り
- ② 松倉虎舞の披露
- ③ 記念パレードでは園児らが手を振って見送りました
- ④ 釜石中央インターでパレード車両に手を振る市民ら
- ⑤ 釜石駅の山蔭康明駅長と一日駅長の双子の園児、山崎蒼依ちゃんと山崎蒼空くんが「出発進行！」
- ⑥ 両石駅で記念列車を出迎える地域の皆さん
- ⑦ 鶴住居駅では虎舞とたくさんの方の応援で出迎えました
- ⑧⑨ 釜石東中生らがデザインした鶴住居駅待合室（トリステーション）の序幕とラッピング列車のお披露目



5



1

三陸沿岸が一体となる鉄路 三陸鉄道リアス線

開 通

全国とつながる高速道路ネットワーク 三陸沿岸道路・東北横断自動車道釜石秋田線



8



7



6



4



2

平成31年3月、待ち望んだ「道」がつながりました。
3月9日、東日本大震災からの復興プロジェクトとして整備が進められてきた、三陸の沿線都市を結ぶ三陸沿岸道路と、内陸と沿岸を結ぶ東北横断自動車道釜石秋田線が開通。甲子町の釜石高校付近の道路上で行われた開通式には約500人が出席し、晴れ渡る空の下、開通を祝いました。記念パレードは釜石ジャンクションを経由し釜石中央インターチェンジへ向かい、降り口の沿岸広域振興局付近で待ち構えていた大勢の市民らは小旗を振って迎えました。15時には一般車両の通行も開始。高速道路へ次々と乗り入れ、いつもと違う景色と、軽快なドライブを楽しみました。
3月23日、東日本大震災で被災し、復旧作業が進められていたJR山田線の釜石―宮古間は、第三セクターの三陸鉄道リアス線として全線開通しました。釜石駅で行われた出発式では、テープカットに続き記念列車にヘッドマークが取り付けられ、「出発進行」の合図で宮古駅へ向け走り出しました。道中の両石駅、鶴住居駅では、大勢の地域の皆さんが小旗や大漁旗を振って歓迎。24日には、釜石東中生などがデザインした鶴住居駅待合室の除幕式やラッピング列車がお披露目され、市内は祝賀ムードに包まれました。

被災した沿岸各地の希望が繋がった日

市長あいさつ

東北横断自動車道釜石秋田線は、昭和62年に法制化されて以来、32年の歳月を経て、やっと全線開通を迎えることができました。そして三陸沿岸道路にも接続し、高速道路ネットワークが形成されました。これは、1000人（仙人）大会などを開催し、長年にわたり要望し続けて実現できたものです。

同時に、三陸鉄道は昭和59年の南北リアス線の開業以来、震災による被害を乗り越え、JR山田線の釜石―宮古間が移管され、三陸鉄道リアス線として全線開通を迎えました。盛から久慈までの163キロという

鉄路は第三セクターとして最長で、沿線住民が待ちに待った鉄道の誕生です。当日は沿線の各駅にたくさんの方々が集まり、温かく列車を迎えていただきました。車窓から、家や職場から手を振ってくださる人々の多さを目の当たりにして、たくさんの方々が三鉄の開通を喜んでいられるのを実感できました。

この道路と鉄道は、震災復興のため加速的に整備が進められてきたのですが、長い時間をかけて行ってきた要望が実ったものでもありません。この歴史的な日を迎えることができましたことに、改めて国、県、関係市町村の皆様、要望団体、市民の皆様、そして何よりも、貴重な土地を提供していただいた土地権利者の皆様、全ての皆様に感謝申し上げます。

これからは、この鉄道と道路を最大限活用し、地域振興につなげていかなければなりません。そのためには、マイレール意識、マイロード意識を持ち、被災地三陸全体で支えていかなければならないと思います。明日への新しい時代の希望となるよう、一日も早い復興完遂を目指してまいりますので、今後ともご協力くださるようお願い申し上げます。

釜石市長 野田武則